

特定不妊治療費助成事業の実施医療機関
(採卵・胚移植を行う医療機関)における情報提供様式①

医療機関名：井上レディースクリニック

配置人員 (※1)	産婦人科専門医	(2) 名		
	うち、生殖医療専門医	(0) 名		
	泌尿器科専門医	(0) 名		
	うち、生殖医療専門医	(0) 名		
	看護師	(4) 名		
	胚培養士/エンブリオロジスト	(2) 名		
	コーディネーター	(0) 名		
	カウンセラー	(1) 名		
治療内容 (※2)	治療の種類	年間実施件数 (2020年)	費用	
	人工授精	(376) 件	(20,000~22,000) 円	
	体外受精	(34) 件	(260,000~400,000) 円	
	顕微授精	(137) 件	(44,000) 円	
	体外受精+顕微授精	(8) 件	(300,000~440,000) 円	
	新鮮胚移植	(4) 件	(55,000) 円	
	凍結融解胚移植	(209) 件	(110,000) 円	
	精巣内精子回収術	(0) 件	() 円	
※上記による記載が困難な場合は、第10号様式の「治療指針について」にご記入ください。				
実施事項	自医療機関の不妊治療の結果による妊娠に関して、公益社団法人日本産科婦人科学会における個別調査票（治療から妊娠まで及び妊娠から出産後まで）への登録を行っている。		(はい)	
	自医療機関で分娩を取り扱わない場合には、妊娠した患者を紹介し、妊娠から出産に至る全ての経過について報告を受ける等、分娩を取り扱う他の医療機関と適切な連携をとっている。（自医療機関で分娩を取り扱っている場合は回答不要）		(はい)	
	医療安全管理体制が確保されている			
	①	医療に係る安全管理のための指針を整備し、医療機関内に掲げている	(はい)	
	②	医療に係る安全管理のための委員会を設置し、安全管理の現状を把握している	(はい)	
	③	医療に係る安全管理のための職員研修を定期的に行っている	(はい)	
	④	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策を講じている	(はい)	
⑤	自医療機関において保存されている配偶子、受精卵の保存管理及び記録を安全管理の観点から適切に行っている	(はい)		
⑥	体外での配偶子・受精卵の操作に当たっては、安全確保の観点から必ずダブルチェックを行う体制を構築しており、ダブルチェックは、実施責任者の監督下に、医師・看護師・胚培養士/エンブリオロジストのいずれかの職種の職員2名以上で行っている。	(はい)		

倫理委員会を設置している ※委員構成等については、公益社団法人日本産科婦人科学会の会告「生殖補助医療実施医療機関の登録と報告に関する見解」に準ずる	(はい)
公益財団法人日本医療機能評価機構の実施する医療事故情報収集等事業に登録・参加している	(いいえ)
不妊治療にかかる記録については、保存期間を20年以上としている	(はい)
里親・特別養子縁組制度の普及啓発等や関係者との連携を実施している	(いいえ)

毎年3月1日時点の状況について記載すること。

ただし、「年間実施件数」については、記載可能な直近の1年間のものを記載すること。

※ 令和4年3月提出分については、2020年1月から12月分とする。

(※1)

- ・東京都特定不妊治療費助成事業の実施医療機関における設備・人員等の指定基準（採卵・胚移植を行う医療機関）の「職員配置基準」を遵守し、正確に記載すること。
- ・人員の算出は、常勤換算で行うこと。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、32時間以上勤務している医師を常勤医師とし、その他は非常勤医師として常勤換算する。（医療法第25条第1項）
- ・胚培養士／エンブリオロジストについては、生殖補助医療胚培養士又は臨床エンブリオロジスト等の認定を受けている者又は大学において胚培養に関する専門的な教育を受けた者であって胚を取り扱う業務に従事しているものを記載すること。ただし、産婦人科専門医又は泌尿器科専門医が兼務している場合は、人数に含めない。
- ・コーディネーターおよびカウンセラーについては、産婦人科専門医・泌尿器科専門医・看護師・胚培養士／エンブリオロジストが兼務する場合には、コーディネーターおよびカウンセラーには含めないこと。

(※2)

- ・人工授精は、月経周期開始から人工授精実施、妊娠確認までの一連の治療周期をさす。費用については、卵巣刺激等にかかる費用も含めた総額（標準的な費用）を記載すること。
- ・体外受精は、採卵により得られた全ての卵子に対し、体外受精を実施した場合の、卵巣刺激、採卵/採精、前培養/媒精/胚培養までの一連の治療周期をさす。費用については、これら一連の治療周期に係る総額（標準的な費用）を記載すること。
- ・顕微授精は、採卵により得られた全ての卵子に対し、顕微授精を実施した場合の、卵巣刺激、採卵/採精、前培養/媒精/胚培養までの一連の治療周期をさす。費用については、これら一連の治療周期に係る総額（標準的な費用）を記載すること。
- ・体外受精＋顕微授精は、採卵により得られた卵子に対し、体外受精と顕微授精に分けて実施した場合の、卵巣刺激、採卵/採精、前培養/媒精/胚培養までの一連の治療周期をさす。費用については、これら一連の治療周期に係る総額（標準的な費用）を記載すること。
- ・新鮮胚移植は、移植、黄体補充、妊娠確認までの一連の治療周期をさす。費用については、これら一連の治療周期にかかる総額（標準的な費用）を記載すること。
- ・凍結融解胚移植は、子宮内膜調整法、凍結胚の融解、移植、黄体補充、妊娠確認までの一連の治療周期をさす。費用については、これら一連の治療周期にかかる総額（標準的な費用）を記載すること。
- ・精巣内精子回収術は、SimpleTESEをさす。費用については、手術にかかる標準的な費用を記載すること。

下記記載様式を用いて、可能な範囲で記載して下さい。

医療機関名： 井上レディースクリニック

治療実績について

※ 施設における、不妊治療による治療成績を記載して下さい。

(記載様式)

当院において、データの揃っている直近の1年間（2020年1月から2020年12月まで）に、治療開始時点において35歳以上40歳未満である女性に対して実施した治療の実績は以下の通りである。

【新鮮胚（卵）を用いた治療成績】

	IVF-ET	Split	ICSI	合計
採卵総回数（回）	14	1	45	60
移植総回数（回）	1	0	0	1
妊娠数（回）	1	0	0	1
生産分娩数（回）	1	0	0	1
移植あたり生産率（%）	100%			

IVF-ET：採卵により得られた全ての卵子に対し、体外受精を実施

Split：採卵により得られた卵子に対し、体外受精と顕微授精に分けて実施

ICSI：採卵により得られた全ての卵子に対し、顕微授精を実施

【凍結胚を用いた治療成績】

	融解胚子宮内移植
移植総回数（回）	210
妊娠数（回）	96
生産分娩数（回）	41
移植あたり生産率（%）	20%

来院患者情報

※ 施設を受診した患者数について記載して下さい。

(記載様式)

データの揃っている直近の1年間（2020年1月から2020年12月まで）に体外受精・顕微授精・胚移植を行った患者数（実数）は

25歳未満：（ 0 ）名

25歳以上30歳未満：（ 6 ）名

30歳以上35歳未満：（ 53 ）名

35歳以上40歳未満：（ 61 ）名

40歳以上43歳未満：（ 51 ）名

43歳以上：（ 17 ）名

データの揃っている直近の1年間（2020年1月から2020年12月まで）に精巣内精子採取術を行った患者数（実数）は

20歳未満：（ ）名

20歳以上30歳未満：（ ）名

30歳以上40歳未満：（ ）名

40歳以上50歳未満：（ ）名

50歳以上：（ ）名

治療指針について

※ 施設における統一された治療指針がありましたら記載して下さい。

年齢別の治療法選択

- 1、38歳未満では、「タイミング指導5～6回→人工授精5～6回→体外受精」を標準治療としています。ただし、治療途中でご夫婦にステップアップのご希望があれば、中間の治療を省略して人工授精あるいは体外受精へと進めていきます。
- 2、38歳以上では、人工授精から治療を開始、回数は3回以内とし、すみやかに体外受精へとステップアップします。他院での人工授精による治療の既往があれば、この限りではなく、ただちに体外受精を開始することをお勧めしています。
- 3、抗ミュラー管ホルモン（AMH）値が40歳代相当の数値を示した場合は、38歳未満であっても38歳以上と同じスケジュールで治療を進めていきます。
- 4、43歳以上の方では、わが国および当院での治療成績、高齢で妊娠した場合の母体や胎児へのリスク、胎児の出生前診断のあり方、などを説明し、理解していただいた上で治療を開始しています。

調節卵巣刺激法の選択

- 1、卵巣刺激を開始する上で最も重視しているのはAMH（抗ミュラー管ホルモン）値です。また、卵巣刺激開始周期の月経時FSH値も参考にします。
- 2、AMH値が1.0以上であれば、年齢にかかわらず、初回治療では高刺激法を選択します。AMH値が1.0未満および7.0以上であれば、低刺激法を選択します。
- 3、初回治療での結果（卵胞数、採卵数、卵巣過剰刺激症状の有無など）を参考に、2回目以降の刺激方法を変更することがあります。
- 4、自然周期法を初回治療で使用することはありませんが、初回治療で卵胞数が極端に少ない場合、FSHが高値で刺激に対する反応不良が予想される場合は、2回目以降の治療では自然周期法を選択することがあります。

医療機関のホームページについて

<http://www.inoue-ladies.jp/>

※ 令和4年3月提出分については、2020年1月から12月分までの治療実績・患者数を記載しています。